

情報交差点・心と心の交わり

あじまへ

大宜味村教育委員会
電話44-3006

にっこり、ほっこり過ごす時間♪

おおぎみこども園で世代間交流



9月15日（金）、敬老の日を前におおぎみこども園で「おじいちゃん おばあちゃん いっしょにあそぼう」が行われました。

開園以来、初めてとなる世代間交流。3歳児～5歳児のおじいちゃん、おばあちゃんを招き、園児たちと一緒に工作や踊りをして楽しみました。

工作は牛乳パックとストローを使ったストローとんぼづくり。各クラスで園児もおじいちゃん、おばあちゃんも交じって誰が一番飛ばせるか競いました。園児の発表はダンスやエイサー、獅子舞を披露し、おじいちゃん、おばあちゃんを楽しませました。

おじいちゃん、おばあちゃんからは奥島キクさんを先頭に「わーけーるしびー」を披露され、園児たちも一緒になって踊りました。

最後にこの日参加してくれたおじいちゃん、おばあちゃんに園児たちから手作りのメダルをプレゼント。みんなが楽しみ笑顔になれる交流会となりました。





令和5年度 第8回大宜味中学校運動会

9月10日（日）、大宜味中学校において令和5年度第8回大宜味中学校運動会が行われました。今年の運動会は結の浜に移転してから初めて中学校だけで行う運動会。大中学生たちはリーダーを中心にこの日まで「一人一人の個性を豊かに みんなで築き上げていこう 最高の大中クオリティー」をテーマに一生懸命練習に取り組んできました。

初めての試みとなる各学年でのリズムダンスや障害物リレー、久しぶりに行われた同窓生リレーなど青空の下、生徒主体の種目が次々と繰り広げられました。

運動会を終え、生徒会長の宮城松さんは「今年の運動会では一人一人の青春の1ページを応援してくれるみなさんに届けられたと思う。エイサーの指導にあたってくれた村青年会、応援してくれた地域の方々や保護者に感謝したい」と感謝の気持ちを伝えました。



謝名城ウングミ

9月2日、謝名城の城（グシク）でウングミが行われました。城（グシク）のウングミは海の神だけでなく、山の神もお迎えして五穀豊穡、豊漁をユンクーイ（祈願）する祭祀で最も重要な祭事とされ、毎年旧盆明けの最初の亥の日、東方の高台、ウイグシクで行われます。祝所殿内で祈願した後、「カアカア」を打ちながら上城へ上ります。アサギでは少年（この日は青年）がたたくカアカアの独特なリズムに乗って縄アシビの儀式が行われ、集



まった人々には山の幸を象徴するシークワサーと海の幸を表すムギク（海ブドウの一種）が授けられます。最後に海の神を送る儀式を行います。海の神様はザン（ジュゴン）に乗って帰ると言われ、歌の中にもザンと言う言葉が出てきます。

塩屋湾のウングミ

今年度の塩屋湾のウングミは神事が若干簡素化し塩屋で豊年踊りが行われる「ウドウイマール（踊り年）」でしたが、台風接近予報に伴う安全確保のため、コロナ禍の開催と同じく神人による御願行事のみの開催となりました。ハーリーや豊年踊りの開催はできなくなりましたが、多くの方が見学にいらっしゃる中、厳かに神事が執り行われました。



～ 村内各区 ウングミ・豊年祭（9月）～

饒波区の豊年祭はお宮での祈願後、ミチズネー、アサギマーでのエンサー奉納踊りを行います。

エンサーは右手右足、左手左足が同時にあがるナンバンと呼ばれる踊り方です。奉納踊りは以前は男性だけで行っていましたが、昭和16年から女性も加わるようになりました。9月2日に行われた豊年祭では区民だけでなく、区にゆかりのある役場職員や郷友会など多くの人が参加し豊年祭を盛り上げました。最後に踊られた「鶴亀」は五穀豊穡を願う踊りで昔から成人会に引き継がれているものです。

饒波区豊年祭



根路銘区・上原区合同豊年祭

根路銘区・上原区合同の豊年祭も同日に行われました。両区区長を中心とした役員による山と海への祈願を行った後、夕方から御嶽前での奉納舞踊、その後公民館で豊年踊りが行われました。子供たちが舞台上上がる演目も多く、皆練習の成果を存分に披露しました。

津波区豊年祭

9月23日には津波区でも豊年祭が行われました。4年ぶりの開催となった今年も前半は伝統的な「長者の大主」から「大主（ウフヌシ）」までの演目を、後半は余興の演舞や民謡ショーなども行われました。各字それぞれの形で伝統に触れ、そして継承していく機会となりました。



新たな指導者を育てる 琉大紙漉き研修

9月14日（木）～15日（金）、琉球大学において生涯学習講座「シークワサーとバショウを使って紙漉きをしよう！（紙漉き研修）」が行われました。

毎年行われている大宜味小学校の卒業証書作成に伴い、教育委員会では指導にあたる指導者の育成も行っていきます。今回も新たなメンバーを連れ、琉球大学の仲間伸恵先生から直接指導を受けながら、技術習得のための研修を行いました。

研修では染料作り、原料作り、染め、紙漉きの卒業証書を作る一通りの手順と流れ、感覚を確認するとともに染料や原料の量を数字で見極める作業を行いました。

研修を終えた参加者からは「バショウを倒すところからじっくり体験することができ勉強になった」、「思いがけないアクシデントもあったが、対処方法やアクシデントからアートが生まれることを知り良い経験になった」などの声が聞かれ、実りのある研修ができました。



まつりとコラボで楽しもう♪ 令和5年度わんぱく体験団 第4弾「大保ダムで・・・」

9月23日（土）、大保ダムにおいて令和5年度わんぱく体験団④「大保ダムで・・・」が行われました。大保ダムまつりと同日になった今回のわんぱく（わんぱくの方が先に決まっていたけれど...）。イベントが重なってお互い人が集まらなくても面白くないし、だったら一緒にやっちゃおう!と言うことで無理やりねじ込ませていただきました大保ダムまつり内でのわんぱく体験団。ただ、まつりに参加するだけではわんぱくらしくない、何をしようか考えていたところ、ダムの植樹に関わった方から、植樹した木が盗まれて困っているとの情報が、なのでわんぱくで注意喚起の看板を作ることになりました。どんな言葉、どんな絵を描いたら見た人に伝わるのか考えながら作ります。



看板づくりが終わったら、大保ダムまつりのオープニングセレモニーに参加。高良凌平さん、大湾光さんが一日管理支所長に任命され、所長の仕事を体験。その間他のメンバーたちは森に学ぼうに参加し、育樹体験をすることになりました。ところが、ここでまさかのスコール。この日の天気予報は晴れだったはずなのに...この時間は降らないはずなのに...なぜか大保ダム周辺だけ降っている!? 雨宿りしたはずなのに、まだ湖面での体験活動もしていないのにすでにびしょ濡れのわんぱくたち。濡れたままですが、育樹活動に取りかかります。シークワサーの周りにみかん木用の肥料をまきまいて生育のお手伝い。ついでにみんなが作った看板も周りに立てて記念撮影。って、看板写ってなかったね(ごめんなさい)。



森に学ぼうの後はみんなが楽しみにしている湖面での体験活動。しか～し、ここでも雨の影響が...。実はこの時雷警報が出ていたため、プログラムに変更が。焦る事務局、急かされるランチタイム。時間をずらして何とかカヌー、サップはできたけれど、湖面遊覧は中止となりました。湖面遊覧を希望していた団員には申し訳ないことをしてしまいました。

カヌーは2人乗り。前後で声をかけながらリズムよく進みます(進めたかしら?)。思っている以上に遠くまで行くカヌー集団。楽しい旅ができたことでしょう。サップはとりあえず座って漕ぐことから始めます。慣れてきたら立ってサップを漕ぎます。みんな初めてのなのにしっかり立って漕ぐことができました。バランスを崩して落ちることはなかったのに、なぜか自ら飛び込む人たちが。これにはサップのお兄さんたちもびっくりしていました。雨で十分濡れているはずなのに...。

湖面体験の後は学習の川で水遊び。何度も滑り台を行ったり来たりループするわんぱくたちにこちらの目が回りそうでした。急な予定変更もありましたが、初めての体験をすることもでき、楽しい活動となりました。終わりがればすべてよし!



寄付

大宜味村育英会へ
匿名希望 様 15万円 令和5年9月15日寄付

～教育委員会 会議だより～

第8回 教育委員会会議 令和5年8月24日（木）午後2時開催

《審議事項》

議案第16号 令和5年度大宜味村一般会計補正予算（教育費予算（第4号））について 《可決》

図書室情報 No.5 0 2 0年2 (令和5年) 10月 大宜味村図書室 (旧議会棟：村史編纂係内) 大宜味村字大兼久 157番地 0980-44-3009

●利用状況累計	9月の統計 (9/22まで)
○来室者数...のべ 2,699人	○来室者数...のべ 49人
○貸出冊数...4,631冊	○貸出冊数...42冊
○登録者数...159人	現在の蔵書数...6,935冊



新着図書



10/20（金）まで、平良キクさん（大兼久）が製作した切り絵やぬりえの作品を展示しています。

※来室の際は、感染症対策へのご協力をお願いします。体調の優れない方は、来室を控えてください。

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

海邦国体で特に記憶に残るのは、本県で行われる国体で初の試みとなった民泊であろう。本国体の成功は民泊の成功にかかっているとも言われる程重要な要素であった。民泊家庭においては、家屋の増改築や空調設備を整えるなどの他、洗濯機や寝具、食器類を揃える等、経済的負担も並大抵ではなかった。それに加え、食事の提供から衛生面や接客面の指針の遵守が徹底され精神的負担も大きく、民泊を受け入れることはなまかな覚悟ではなかった。

さらに、海邦国体基準献立が民泊家庭にも適用されるため、標準献立講習会が村内で実に31回も開催された。食材調達については、給食センターで一括購入を行うことで、村内民泊の献立統一が可能となったが、調理は嫁いだ娘を呼び寄せ、婦人会や近隣住民が協力して、朝も暗いうちから朝食づくりに取り掛かり、夕食から翌日の仕込を終えるのが深夜に及ぶという状況が連日続き、郷土食を盛り込み栄養バランスのとれた心のこもった食事が、9月16日から24日までの9日間提供された。そして、人々はその合間に太鼓や横断幕を持って選手の応援に駆け付けるなど、まさに“国体一色”の一週間であった。



料理講習会の様子



お隣近所協力しての食事作り



食欲旺盛な選手たち



観戦される皇太子殿下



↑大会本部、艇置場は海上に設置する方法となり、国、県、施設管理者と協議を重ね整備が行われた
↓塩屋小学校での開会式の様子 一人二役も三役もこなした村を挙げて大会を成功に導いた

左：大宜味中学校生徒は息の合った合唱で歓迎

右：村内小学校全児童230名による勇壮なエイサー



村史編さんだより

第150号 2023年10月1日 大宜味村村史編纂係44-3009

一人一役万人が主役

回想の頃

海邦国体漕艇競技大会



昭和62（1987）年9月20日から23日の4日間にわたって、村政史上最大の行事として歴史に刻まれた「第42回国民体育大会（海邦国体）漕艇競技会」が塩屋湾で開催された。

昭和57（1982）年12月、会場地が塩屋湾に決定すると、県漕艇協会（現ボート協会）の設置よりも早く、村では「くにびき国体」漕艇競技会が開催された島根県美保関町へいち早く先催地視察員を派遣した。

とにかく、全く未知の競技であることに加え、誰も経験したことのない全国規模の大会開催のうえ、大会2日目の9月21日には、皇太子徳仁親王殿下（当時）のご観覧も予定されており、村当局の重圧は相当なものであった。

昭和59（1984）年2月10日に準備委員会設立、昭和60（1985）年5月31日の実行委員会設立と共に、村国体室が設置され、事務局には膨大な作業がのしかかってきた。常任委員会と六つの専門委員会の同時進行、調査研修、企画準備に奔走しながら地元選手の養成にも努めた。

村民も一丸となって海邦国体成功を目指して開催準備に取り組んだ。十分な講習会が持てなかったにも関わらず、競技役員、補助員、係員が個々で研鑽努力、競技運営に万全を期して取り組み、特に、辺土名高校、大宜味中学校の補助員のきびきびした業務は、本競技会の模範であった。

期間中は危惧された台風の襲来もなく、4日間にわたってスムーズな運営が行われ、9月23日には熱戦の舞台となった塩屋湾が静かに見守る中、表彰式・閉会式が行われ、海邦国体漕艇競技大会は幕を閉じた。正午前には沖縄県で20世紀最後となる金環日食が観測され、神秘的に満ちた美しい光の輪の残像と共に、海邦国体の思い出は人々の脳裏に強く刻まれた。



右：沖縄県選手・関係者 左：開会式のプラカードをもつ辺土名高校生と県選手団

下：競技の様子と熱心な応援

政信教育長のあじま～コラム



「自分を知り 自分の能力を最大限に発揮する」

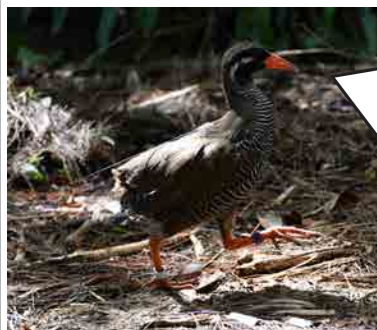
バスケットのワールドカップは沖縄も会場になったこともあり、すごい盛り上がりでした。私もテレビに釘付けになっていました。この大会にちなんで県内のバスケット関係者がテレビや新聞等のマスコミで紹介されていましたが、その中には本村出身で1978年のインターハイで活躍した辺土名高校の関係者もいました。

数年前、その辺土名高校のインターハイでの活躍のことが「速さ追求 高さに対抗」という見出しで新聞に掲載されていました。辺土名高校は参加チーム中、唯一スタメン平均身長169cm、高さが要素となるバスケットにおいて、常に190台選手を相手競い、ベスト4という素晴らしい成果を残しました。彼らは足の速さという自分達の能力をフルに発揮したのです。「自分には〇〇が足りないから、〇〇がないからどうせできっこない」「〇〇さんと比べて劣っているから、かなわない」と行動する前から諦めた経験が誰しもあると思います。しかし、全てが備わっていても成功するとは限らないのです。他との比較より自分の持てる力をフルに発揮して努力することが大切なのではないかと思えます。しかし、また、生まれつき美貌や体格に恵まれ等、努力してもかなわないものもあるのも事実です。羨ましがるとは自分の優位性（前述の場合足の速さ）を生かし、伸ばすことが大切だと思えます。

今、教育現場では「個別最適な学び」といって、一人一人の子の特性や興味・関心に応じた柔軟な指導を行うことが求められています。それは正しくその子なりの良さを見つけ、認め、伸ばしていくことだと思えます。

今月の生きもの

ヤンバルクイナ：クイナ科



ハイサイ♪私、みなさんお馴染みのヤンバルクイナです。と言っても私は他のヤンバルクイナとは違うんです。飼育下繁殖のため、人に育てられたヤンバルクイナ。

そして今回そんな私たちが野生で暮らしていけるか調べるため、訓練を受けた後、発信機と足輪を付け試験的に野外に放鳥されました。

発信機をたどることで、私たちがだいたいどの辺りにいるのか、元気しているのか調査します。みなさんも、もし私を見つけたら「いつ、どこにいた」、そしてもし分かれば「何色の足輪（右と左の色）をしていたか」教えてください。情報がたくさん集まるとわかることが増えていきます。ご協力お願いします。

10月の行事予定

1日（日）	小学校運動会	19日（木）（小）	宿泊学習 ~20日
2日（月）	区長会	21日（土）	カジマヤー （中）校内合唱コンクール
	振替休日（小10/1運動会、中9/30地区陸上）	22日（日）	老人・婦人合同スポーツ大会
7日（土）（小）	運動会予備日	26日（木）	定例教育委員会議
8日（日）	国頭郡陸上競技大会	28日（土）	しまんちゅ芸能 おおぎみ展 ~29日
9日（月）	スポーツの日	29日（日）	公民館講座
13日（金）（小）	校内童話お話審査会		

